



❖ 講演会・研究セミナー ❖

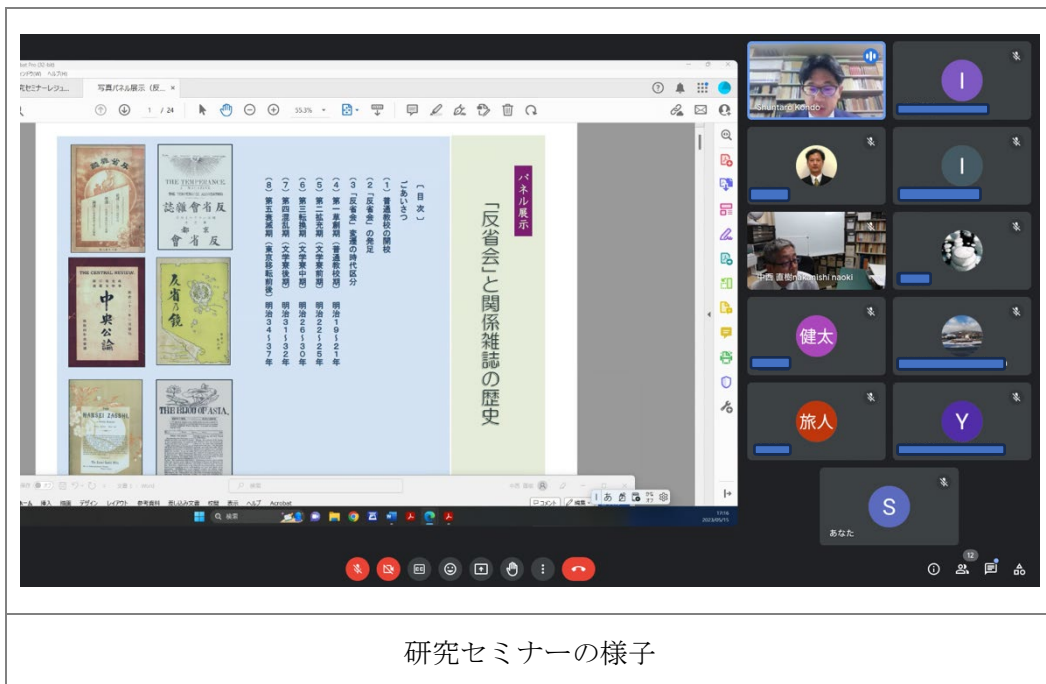
明治・大正期の龍谷大学関係雑誌

「反省会」興亡史
(1) 草創期・拡充期
(2) 転換期・混乱期・衰滅期

(1) 2023年5月15日(月) 17:15~18:45

(2) 2023年5月22日(月) 17:15~18:45

オンライン開催 (Google Meet)



研究セミナーの様子



(5) 玉本町に出版体制整備（反省会本部・海外宣教会・新報社・興教書院・令徳会雑誌部）

第三転換期（文学寮中期） 1893（明治23）～1897（明治30）年

- (1) 島地黙雷会長の下で本部役員の刷新・地方支部の再編（羽田荷生の地方巡回による拡大路線）
- (2) 宣教部設置→1895年以降、会員拡大路線の転換
- (3) 教育部設置（文学寮予備校）
- (4) 『反省雑誌』の誌面充実→反省会の活動記事減少→反省雑誌社の東京移転（反省会からの分離促進）

第四混迷期（文学寮後期） 1898（明治31）～1900（明治33）年

- (1) 『反省雑誌』＝『中央公論』と改題、総合雑誌に発展、反省会との関係断絶
- (2) 反省会副会長・文学寮長の藺田宗恵＝反省会との連携を深め文学寮の文部省認可中学校への昇格を企図
- (3) 文学寮校友会誌『松籟』、反省会本部機関誌『反省』の創刊、反省会慈善部新設
- (4) 保守派の妨害→99.6 藺田北米へ（文学寮長退任）→文学寮・反省会の活動停滞

第五衰滅期（東京移転前後） 1901（明治34）～1904（明治37）年

- (1) 学校条例発布により文学寮消滅
- (2) 東京に高輪分教場（後の高輪仏教大学）開設後に反省会も東京移転
- (3) 反省会＝高輪仏教大学の校友会に付随する形式で存続→高輪仏教大学の廃校とともに消滅